

広東外大教員時代の大里先生

——課外の触れ合いの場で何気なく教え導いていく

韋 立 新

大里先生と過ごしたときから早三〇年以上も経ちましたが、今でも思い出すと心が温まる思いでいっぱいです。

よく考えてみると、前世紀の七九年に広東外語外貿大学に入学した私たちは実に幸せでした。あの時代には、大学で直接日本人の先生に日本語や日本文化などを教わることは今のよう一般的、かつ当然のことではなく、日本語専攻の大学生として、入学してから一貫して大里先生のご指導に恵まれたのは、どれだけ特別な意味があるのか想像に難くないでしょう。

同級生の中には、高校時代に多少日本語を勉強していた者も一部いましたが、中国の各地方（当時の流行り言葉ではよく「五湖四海」と言いました）から集まってきたのは、日本や日本人についてはまったく知らない若者がほとんどでした。そのため、私たちに初めて接触する日本人の先生の指導で、日本の文学作品や歴史・思想などに関する難解な本を、ひとつくんだりひとつくだり読み解いていくのは、珍しく新鮮味にあふれ、勿論とても有難い経験でした。しかし何よりも忘れたくないのは、授業時間外に時々先生のご家族の皆さんと一緒に

に過ごした触れ合いでした。外で遊んだり、先生のお宅で飲み食いしながらおしゃべりしたり歌ったりするなどの時間でした。

当時、学生は全員寮生活をしていましたものですから、図書室や教室へ勉強に行く時やどこかへ遊びに行く時もグループで行動することがほとんどでした。そんな中、先生は時々お茶やおつまみなどを用意して、学生たちをグループごとに自宅へ招いてくださいました。あの時代のことなので、学生は慎ましい生活をするほかに、外で飲み食いする機会はめったにありませんでした。寮と教室の往復しかない単調な生活を強いられていた私たちは、先生ご夫婦のご招待でホームパーティーに呼ばれるのをいつもひそかに待ち、楽しみにしていました。何しろ当時は、特に夜は遊びに行く処もほとんどなく、月に一回ほどの映画上演会を除いてこれといったレジャーは何一つありませんでしたから。こうした状況の中、先生のお宅での集いは言うまでもなく最大の楽しみの一つでした。

ホームパーティーでは、時には先生のお子さんたちと一緒に遊び戯れたり、時には先生と一緒にお茶やお酒を飲みながら気軽な気分で語ったり歌を歌ったりしました。このようなリラックスした雰囲気の中で、普段は口下手な人や内向的な性格で口数の少ない人でも、その場では一人一人順番に何かをしゃべったり歌や芸を披露したりしなければならぬルールになっていたのも、徐々に慣れていつの間にか大胆にしゃべるようになっていました。皆、ご家族の皆さんとの触れ合いを通じて、自然に日本人や日本のことも少しずつわかるようになってきました。つまり、その課外の触れ合いのおかげで、われわれ自身も意識しないうちに皆それぞれがいろいろな意味で少しずつ成長したのです。

教室以外の場で大学の先生と交流することがほとんど考えられない時代でしたから、外国人の先生ご家族とこのような形で交流できるとは想像さえしていませんでしたが、大里先生ご夫婦のおかげで、大学時代の私たちは幸いにもとても貴重な経験ができたわけです。こうした経験もあって、その後日本のことや日本文化が好きになり、卒業後日本と関係のある仕事に携わったり日本研究を始めたりする人が少なくありませんでしたが、私もその中の一人です。他の同級生が当時の経験にどんな思いを抱いているかはわかりませんが、私の場合はまさに大里先生ご夫婦と広東外大で出会い、そして幸いにもご自宅で貴重な「社会勉強パーティー」を経験したから、今日の自分があるのだ、とつくづく思っています。

そういえば、今でも時々懐かしく思い出すのですが、あの時の先生はなかなか面白くて、時々半分酔っ払いながら、椅子の上にしやがみ込んで日本の小唄を歌われました。その滑稽洒落な姿がとても印象的で、今でも目に浮かんできるところです。私はその後京都へ留学した時に、スナックや居酒屋などで日本の飲み屋文化を実際に体験しましたが、その際にも時々、「なるほど！」と先生の当時の姿を思い出してはこらえきれずに吹き出し笑いました。

広東外大で教鞭をとられた時代の大里先生といえば、課外の触れ合いの場で何気なく教え導いていく先生の姿が思い出されて仕方ありません。心の中は感謝の気持ちでいっぱいです。

大里先生、本当に有難うございました。